

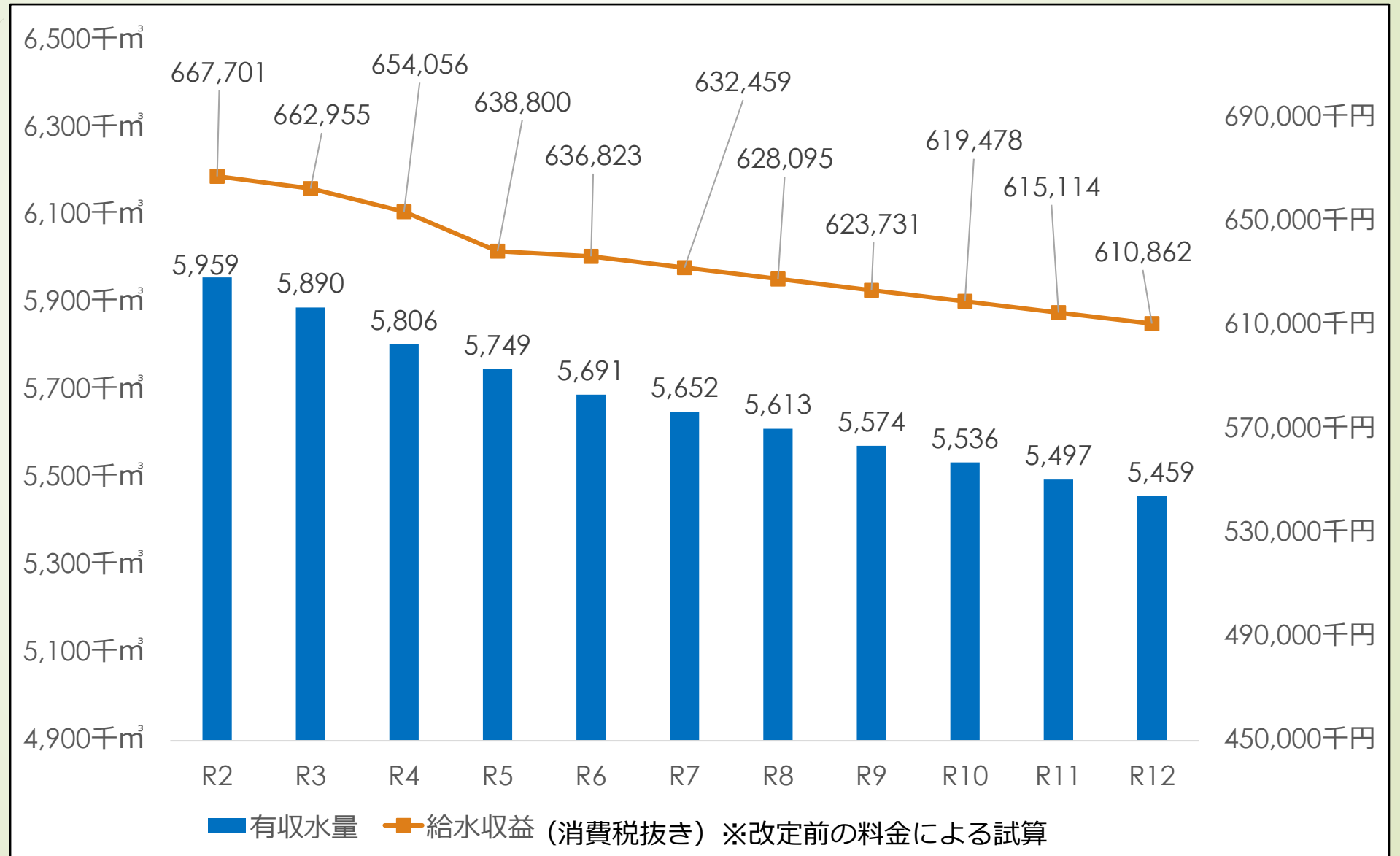
【水道事業の経営状況】



有収水量と給水収益の推移

◆ 人口減少に伴う水需要の減少により、令和12年度の有収水量は、令和4年度と比較して347千 m^3 (5.97%)の減少が見込まれます。

これに伴い、給水収益も令和12年度と令和4年度を比較して、43,194千円の減少が見込まれます。



目標

計画的な更新と災害に強い水道施設の構築

(消費税込)

【計画期間中の投資額】

約53億3,790万円

【主な出水市上水道給水区域：安原区域・小原区域】

◆ 六月田水源地基本設計業務【令和5年度実施】

現在の施設は、昭和52年に整備されているため、老朽化が進み、再整備をしなければ大規模な地域が給水困難になる恐れがあることから、ダウンサイジング等を行い、配水規模に応じた設計を実施し、その後、計画的に更新を行います。

※安原区域の更新が終わった際は、小原区域の更新を実施します。

◆ 基幹管路の耐震化について

地震等の自然災害に備え、基幹となる水道施設の安全性の確保、災害対策拠点となる施設や病院等への給水確保、さらには、水道施設の被災時において迅速な復旧体制の構築のため、耐震化への取組を推進する必要があります。

令和4年度に完成した耐震化計画を基に、優先順位の高いものから計画的に更新していきます。

上記更新を10年で実施すると、年間約5.3億円必要

主な施設の現状

【六月田水源地…昭和52年度整備】



【小原ポンプ場…昭和35年度整備】



【令和5年度実施】

- ◆ 六月田水源地基本設計業務
(老朽化している施設を計画的に更新するため。)

漏水の状況



令和4年度実績

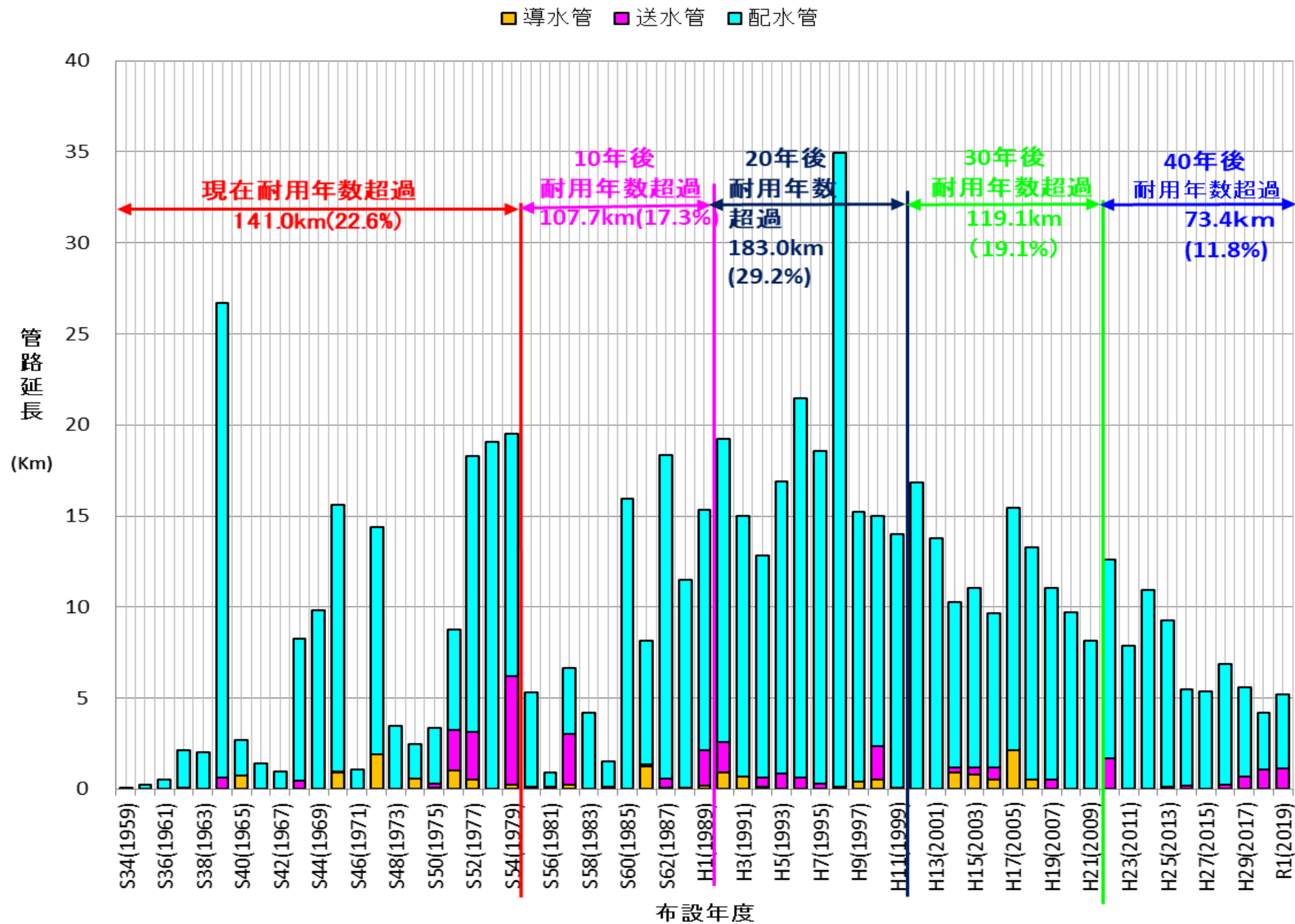
・漏水工事件数 187件
(うち管路関係 58件)

【令和5年度(8月末時点)】

・漏水工事件数 100件
(うち管路関係 22件)

※老朽化に伴い、漏水は2日に1回、管路の漏水は1週間に1回発生している状況。
(工事の際は、断水が伴います。)

管路の年度別布設状況



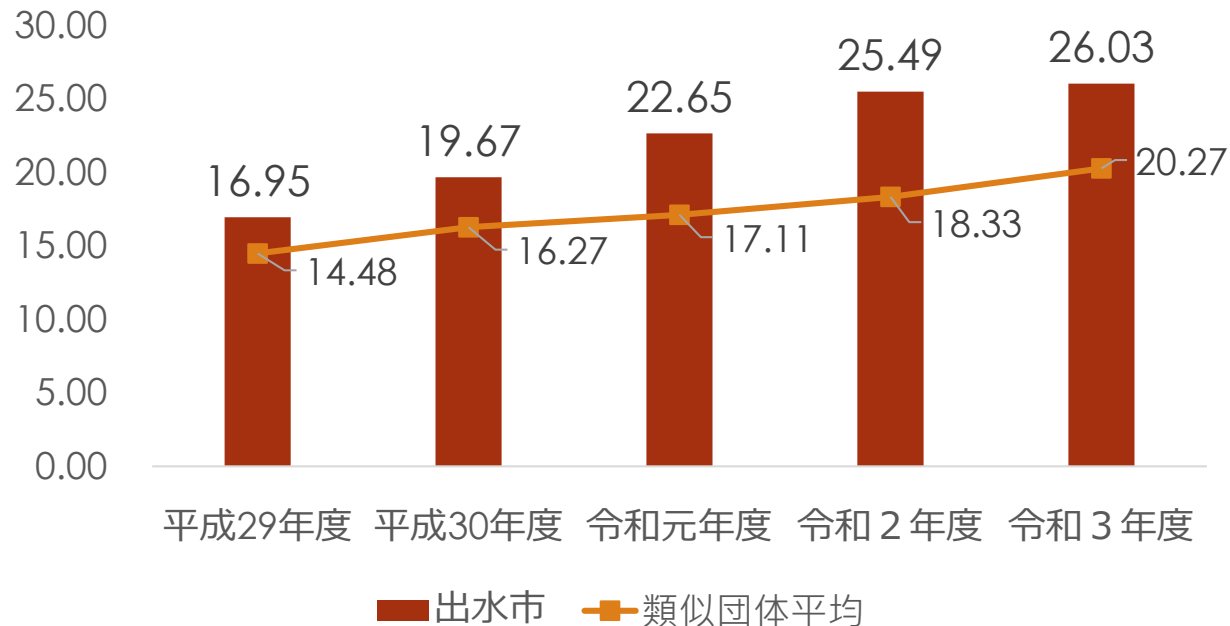
管路の老朽化の状況

◆ 管路経年化率とは、法定や耐用年数を超えた管路延長の割合で、管の老朽化度合を表しています。本市は年々上昇しており、類似団体(本市と同規模の団体)平均を上回っています。

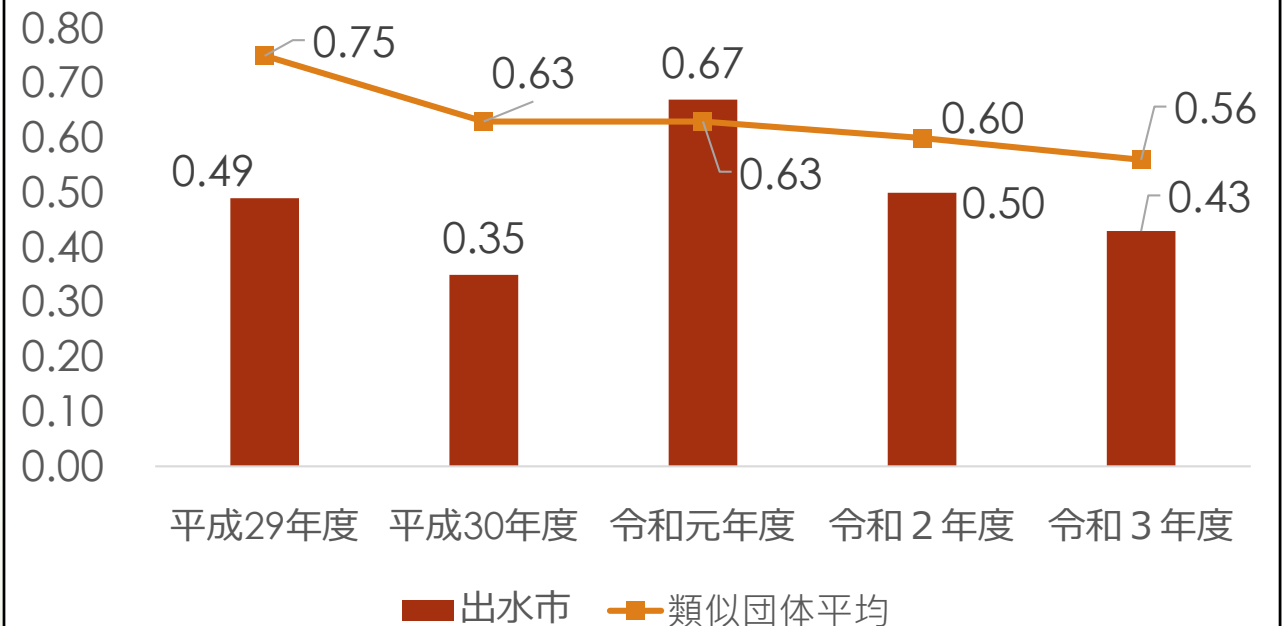
また、管路更新率は、当該年度に更新した管路延長の割合を表しています。本市は、年々減少しており更新が進んでいない状況で、類似団体の平均も下回っています。

このことから、管の老朽化が進んでいるのに対して更新が進んでおらず、更新費用の確保が必要となっています。また、管だけではなく、施設についても同様に更新が進んでいない状況です。

管路経年化率



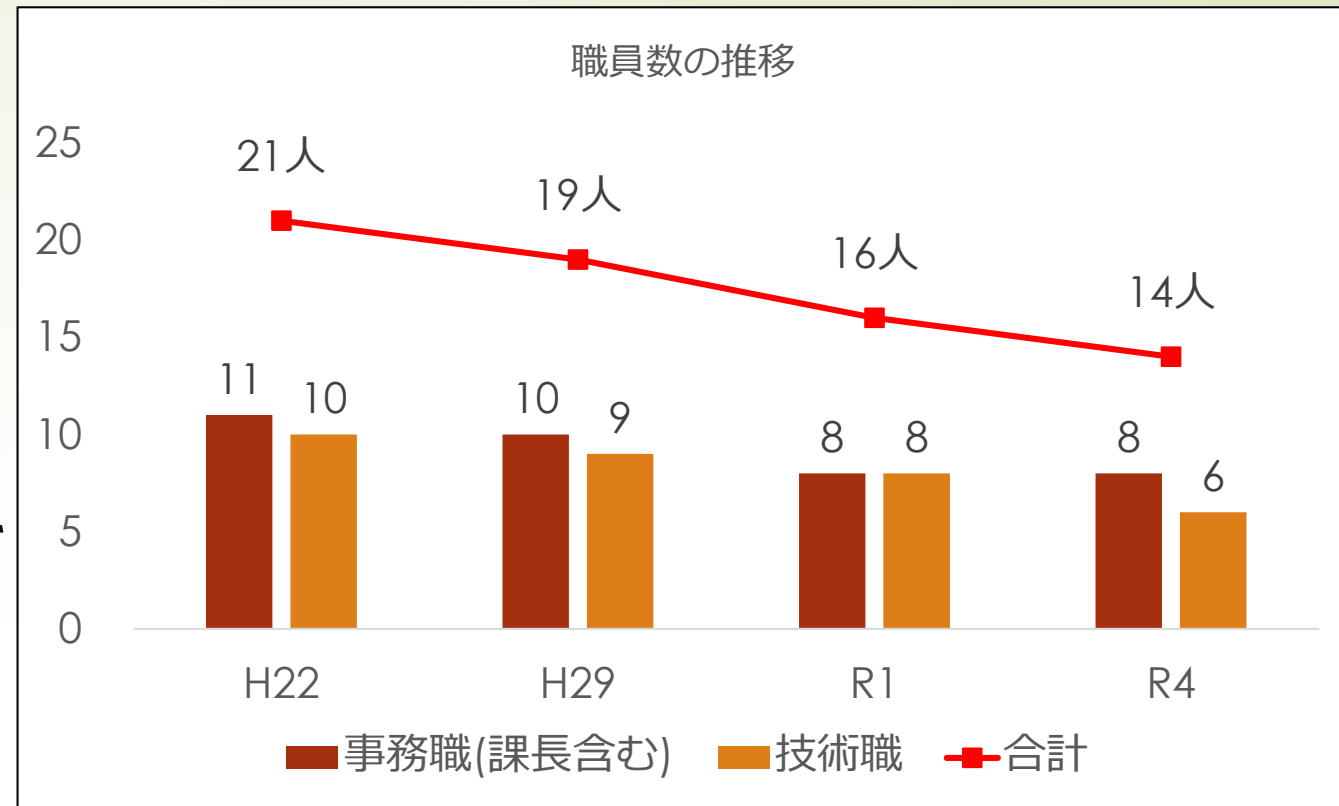
管路更新率



経営改善に向けた取組

【職員数の抑制】

◆ H22以降、徐々に職員数は減ってきており、R4時点では、H22年と比較すると**7人の減**となっており、給与費を抑えています。



【組織の統合】

◆令和5年4月1日から水道課及び下水道課を統合し、上下水道課となりました。これにより、業務の集約による経営の効率化、窓口の一元化等によるサービス向上を図ります。

【施設台帳の整備及び耐震化計画の策定】

◆令和3年～令和4年にかけて整備・策定した施設台帳及び耐震化計画に基づき、重要度を評価した上で、優先順位の高いものから順次更新し、収支の予測及び改善を図るとともに、耐震化も進めます。

サービス向上の取組

【コンビニ収納の実施】

平成27年から、水道料金のコンビニ収納を実施しており、夜間や休日においても支払ができるため、市民の利便性の向上を図りました。

【インターネットを活用した開閉栓の受付】

令和4年3月から、水道の開閉栓等の手続をインターネットからできるように整備しました。ネットから申請を受け付けることで、市民は申込書の提出の手間が省ける一方、市としては、手続が簡易となり、効率的に処理できています。

【広域化の検討】

鹿児島県が策定した水道広域推進プランに基づき、今後検討していきます。
※広域化とは、複数の水道事業が事業統合を行うこと。また、財政基盤及び技術基盤の強化を目的とし、複数事業にて管理の全部又は一部を一体的に行うこと。

【民間活力の活用】

包括的民間委託の実施、窓口業務の民間委託の検討等。

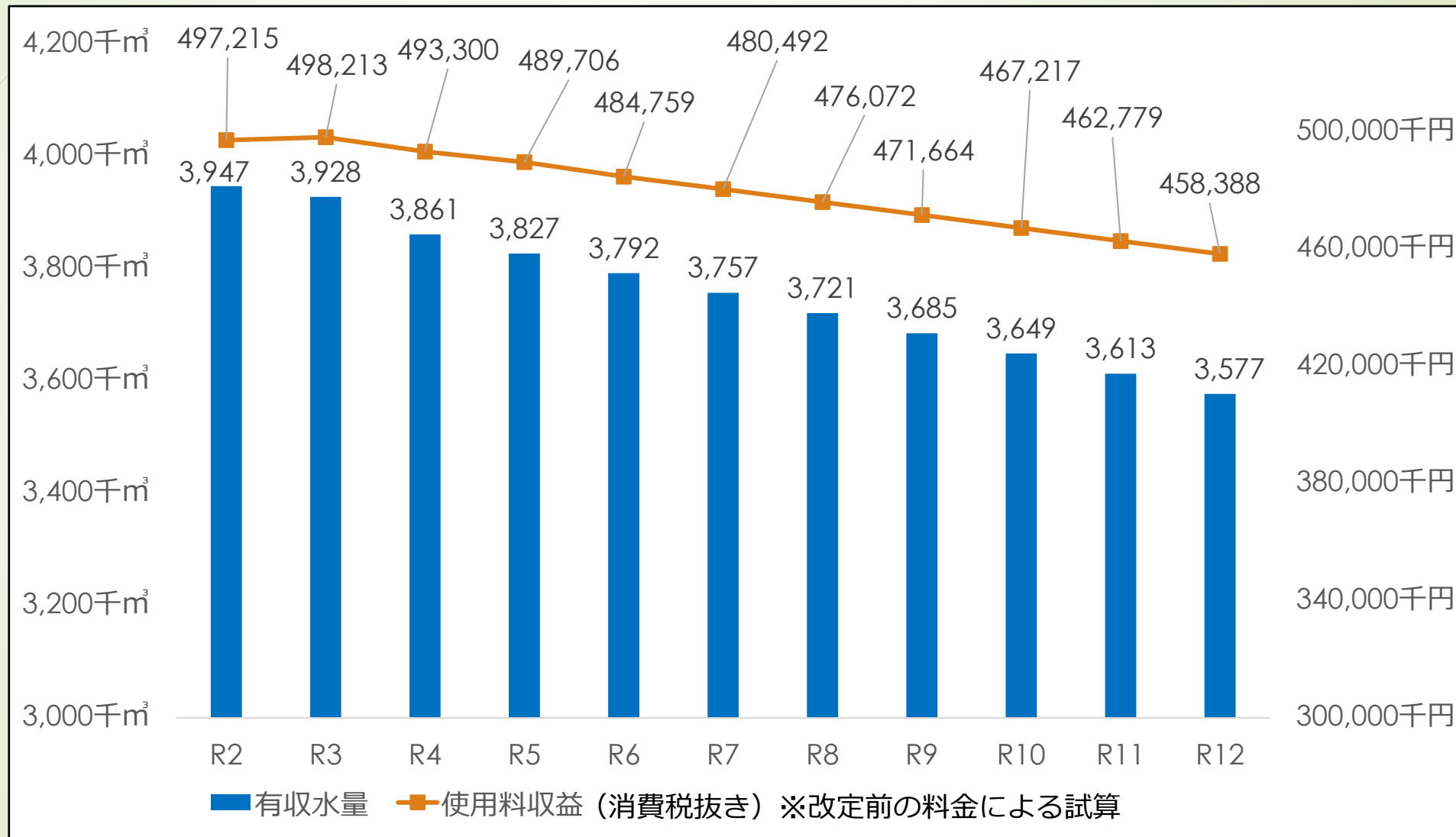
【下水道事業の経営状況】



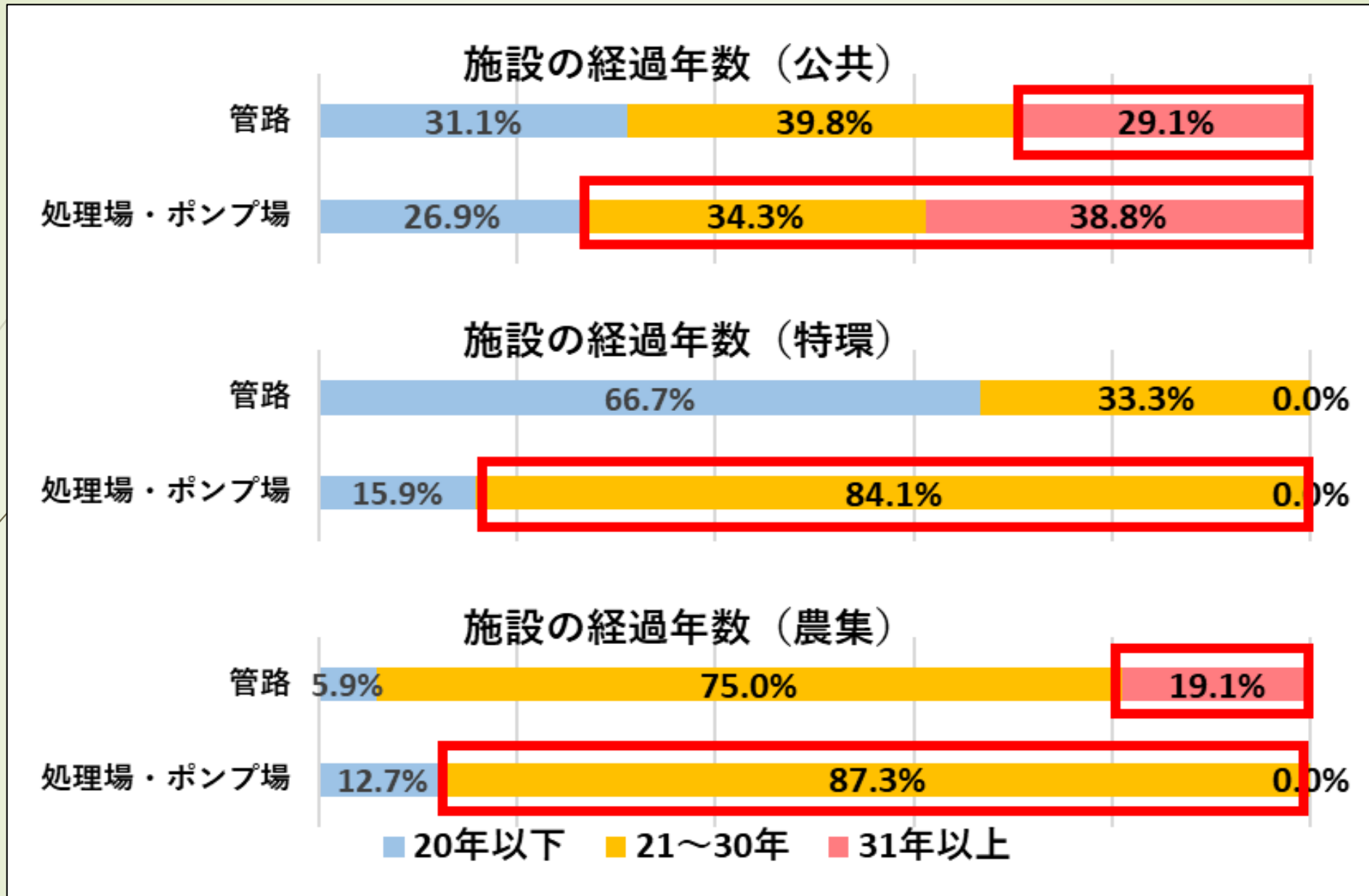
有収水量と使用料収益の推移

◆ 人口減少に伴う水需要の減少により、令和12年度の有収水量は、令和4年度と比較して284千 m^3 (7.36%)の減少が見込まれます。

これに伴い、使用料収益も令和12年度と令和4年度を比較して、34,912千円の減少が見込まれます。



老朽化施設の増大



注. グラフは固定資産台帳の取得年、取得金額ベースで作成
出水市下水道事業経営戦略より

令和7年度から令和16年度に必要な建設改良費

国庫補助金等を活用しながら、計画に基づいて事業を進めます。

- 公共下水道ストックマネジメント計画
- 農業集落排水施設最適整備構想
- 雨水管理総合計画 等

※補助事業は、計画の2分の1で事業費を算定しています。

(消費税込)

10年間の建設改良費

約43億9,620万円

【内訳】	管渠	16億4,675万円
	ポンプ場	4億8,495万円
	処理場	22億6,450万円

【財源】

企業債（償還金への国の財政措置あり）

約24億9,680万円

国・県補助金

約18億7,810万円

その他

2,130万円

経営改善に向けた取組

【地方公営企業法の適用】

経営状況の把握により、経営の質の向上、効率化を図ることを目的として、令和2年4月1日に地方公営企業法を適用し、公営企業会計へ移行しました。これにより、財務情報の適切な把握が可能となりました。

【組織の統合、再編】

令和5年4月1日から、水道課及び下水道課が統合し、上下水道課となりました。業務の集約による経営の効率化、窓口の一元化等によるサービス向上を図ります。なお、平成26年度には、建設係、維持係の2係を建設維持係の1係に集約しました。

【施設の適正な更新】

下水道施設全体の長期的な改築事業のシナリオである公共下水道ストックマネジメント計画や農業集落排水施設の更新計画である最適整備構想に基づき、国庫補助金を活用した施設の更新事業を進めています。